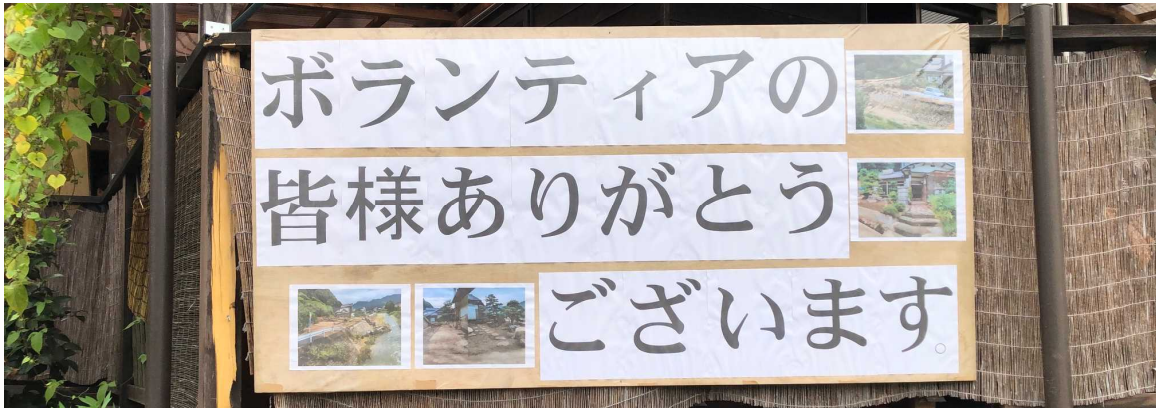


# 伴学区 町内会連合会だより 大雨特集

## 8月の長雨 伴地区の被害



被災から3週間。ボランティアに感謝の掲示が（9月11日、伊藤家）

## 伴地区に初の災害ボランティア

延べ  
200人

## 土砂撤去で伊藤家復旧へ

お盆を中心に見舞われた長雨の影響で、伴中央1丁目の伊藤清さん(70)方で8月14日昼前、裏山が崩落し、土砂は住居から庭、畑を直撃。家では天井まで土砂が流れ込み、家族5人住めない状態になりました。

広島市による復旧工事が始まったのは26日。これに合わせて伴学区の町内会連合会と社会福祉協議会が地元の各種団体にボランティアを呼び掛け、さらに安佐南区社会福祉協議会のボランティアセンターが加わって、住居周辺から屋内にかけての土砂を取り除く作業がスタートしたのです。

地元の人たちに広島大生など区社協の災害ボランティアセンターからのボランティアを合わせて5日間で延べ200人。家の内外に分かれて泥や土石などをシャベルで取り除いていったのです。

ショベルカーが加わって、9月12日には土砂に埋まっていた庭が、居間が、床下が次々に元の姿に戻ってきたのです。

災害ボランティアが伴地区に入ったのは今回が初めて。伊藤家、近隣の皆さんはボランティアの力に驚嘆しました。

伊藤清さんの話 土砂崩れの被災から一カ月半。多くのボランティアの皆さまのご支援で元の姿に戻りつつあり、家族一同感謝の気持ちいっぱいです。また過分なお見舞いをいただき、お礼申し上げます。1日も早い再建へ努めて参ります。



土砂に埋まった家が  
ボランティアの力で

